

● 一口に「介護職」というけれど…

仕事内容もいろいろ

身体介護	食事や移動、入浴、着替え、排せつサポートなど
生活支援	掃除や洗濯、食事の支度、買い物など
その他	生活相談、レクリエーション、病院等への付き添いなど

※介護の仕事は、人対人の仕事です。人はそれぞれ現在の状況も違えば、歩んできた過去も、現在の希望や要望も異なります。介護職は、一人一人の声に耳を傾け、肌の色つやや行動などにもさりげなく注意を払う繊細な仕事でもあります。

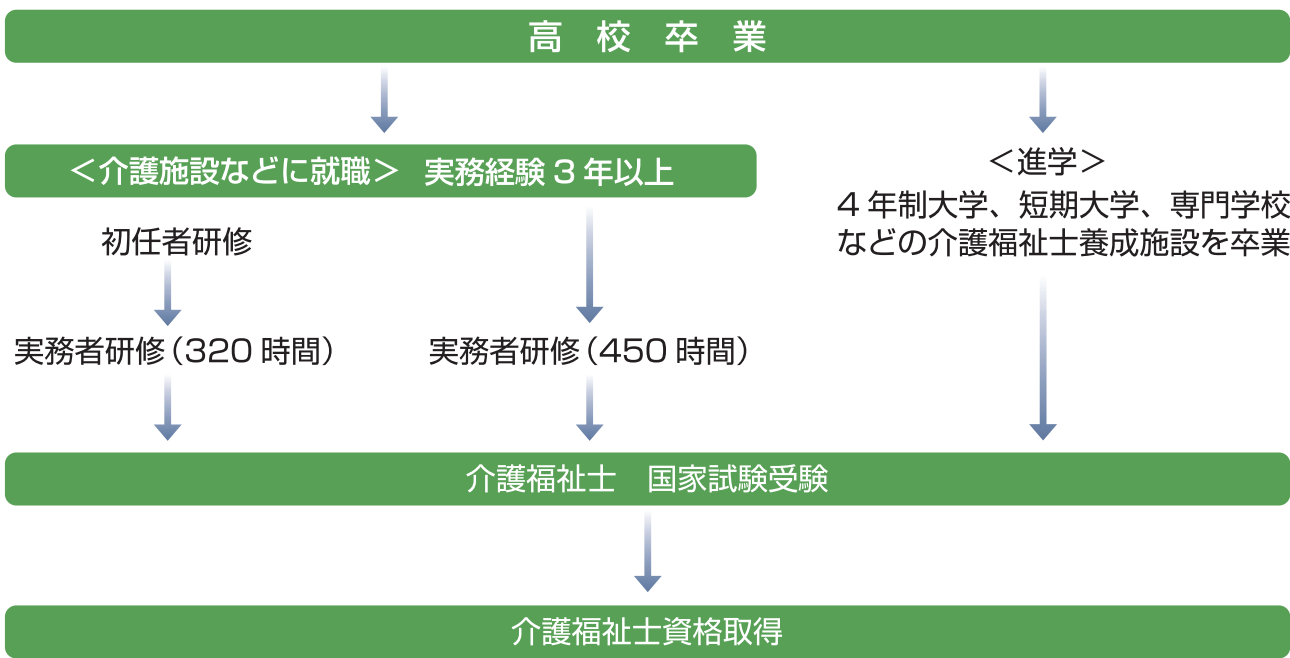
働く場所もさまざま

入所型	介護を必要とするお年寄りが入所、入居して介護サービスを受ける施設です。	有料老人ホーム 特別養護老人ホーム グループホーム 等
通所型	介護を必要とするお年寄りを日中受け入れる施設です。	デイサービスセンター 等
訪問型	介護が必要なお年寄りの家を訪問して、介護サービスを提供します。	利用者の自宅 等

資格とキャリアアップ

介護職員初任者研修	基礎的な介護のスキルを学ぶための研修です。
実務者研修	介護に関する専門的な知識と実践的な技術を習得する研修です。
介護福祉士 ※国家資格	介護関係の中で、唯一の国家資格です。介護に関する総合的な知識を身に付け、チームリーダーとして活躍することができます。 また施設に配置が義務付けられている生活相談員（ソーシャルワーカー）として働くことができるようになり、利用者や家族からの相談に耳を傾け、質の高い介護サービスを提供していく役割を担います。
ケアマネージャー (介護支援専門員)	介護サービスを利用する人の意向や状況を踏まえ、適切な介護のプランを考える重要な仕事。ケアマネージャー試験を受けるには、介護福祉士等の資格と5年以上の実務経験が必要です。

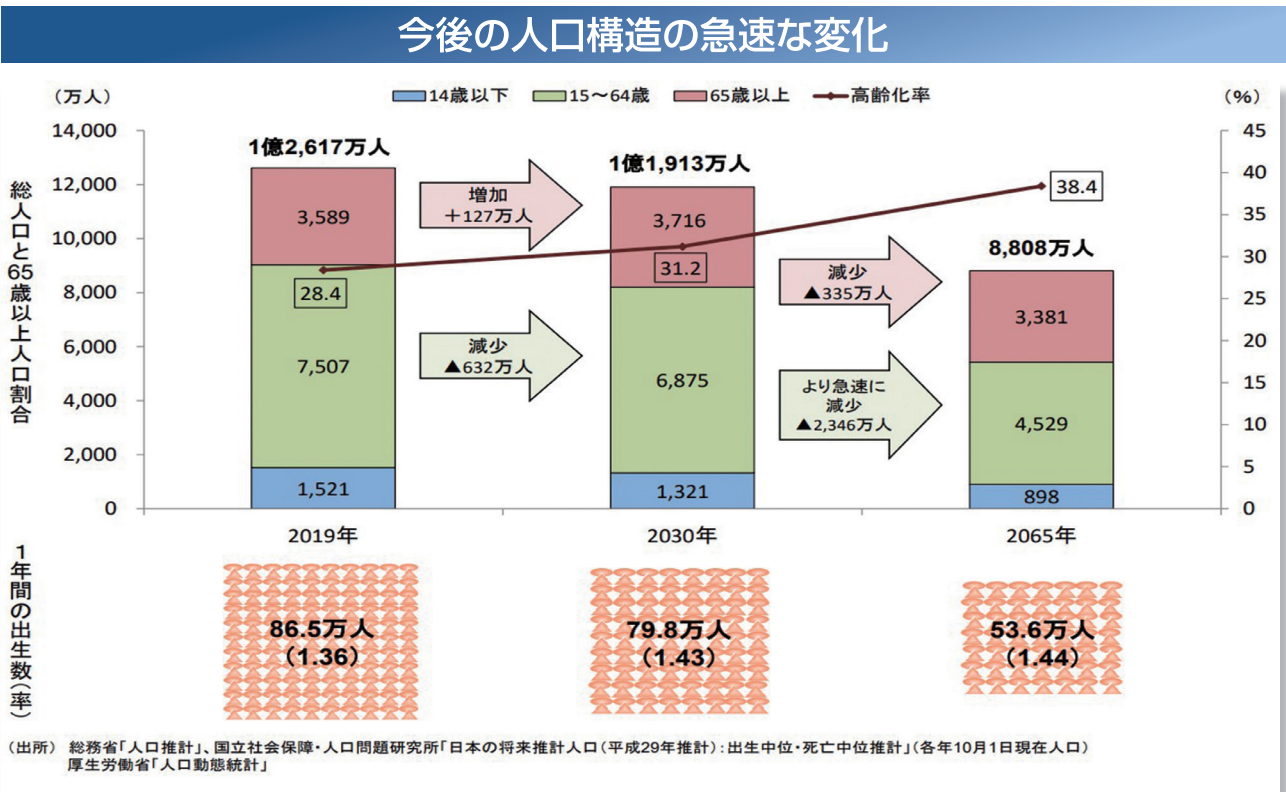
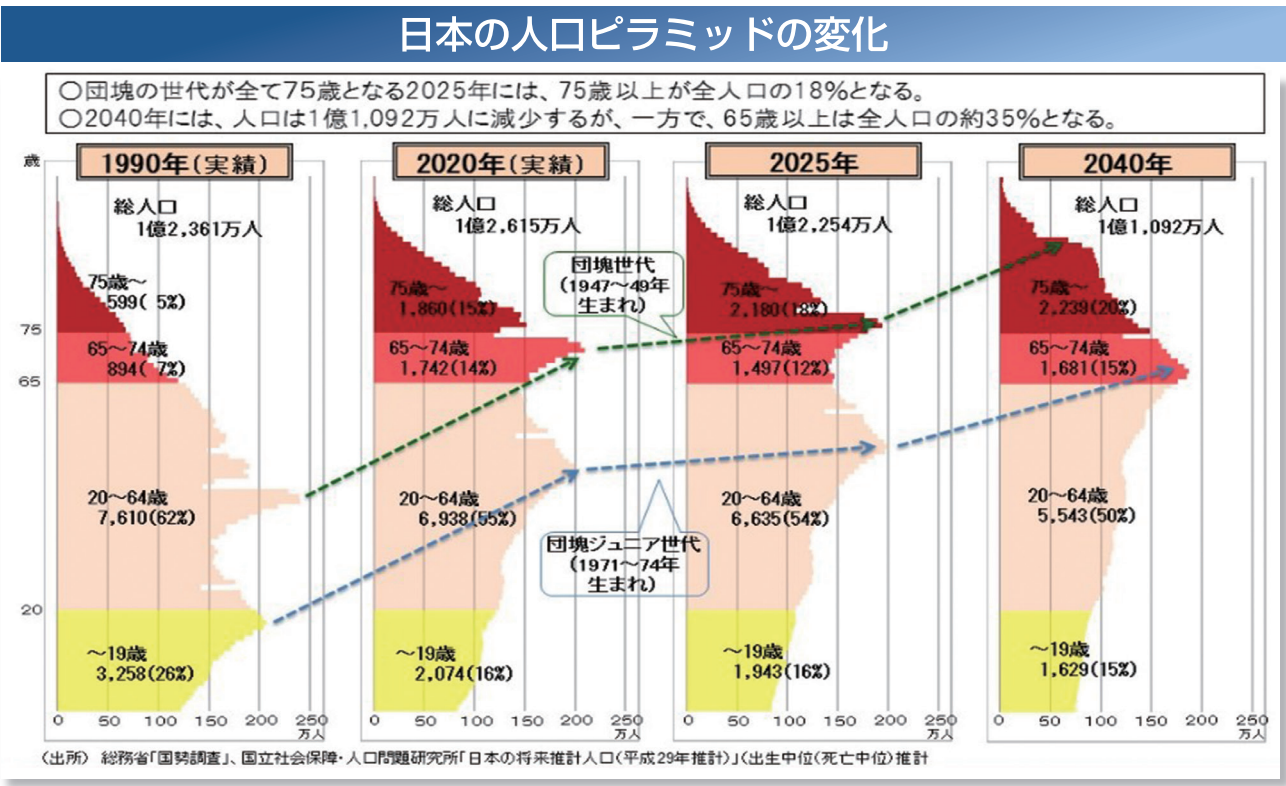
介護福祉士になるまでの流れ



介護職の魅力とは何か？

● 高齢になると多くの人に介護が必要になる。

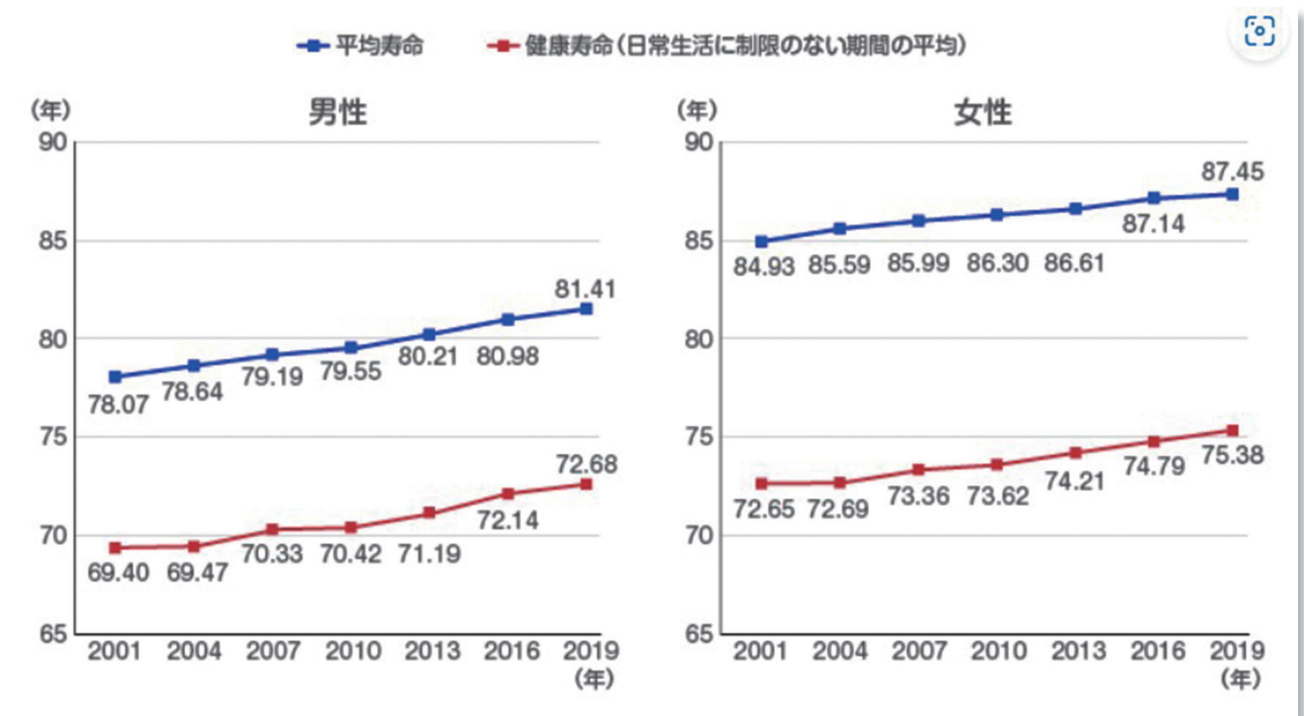
日本は少子高齢化が急速に進んでいるため、2040年には人口の35%（つまり約3人に1人）が65歳以上の高齢者になることが推測されています。



● 健康寿命は10歳低い

WHOは、寝たきりや認知症にならずに自立して生活している期間のことを「健康寿命」と定義し、健康寿命を伸ばすことが重要だとしています。

日本人の寿命は女性が87歳、男性が81歳ですが、健康寿命は女性が75歳、男性が72歳。つまり10年間前後は医療や介護の助けがなければ、自分の命や健康を維持できない人が多いのが現状です。



● 2040年には介護職員が約69万人不足する

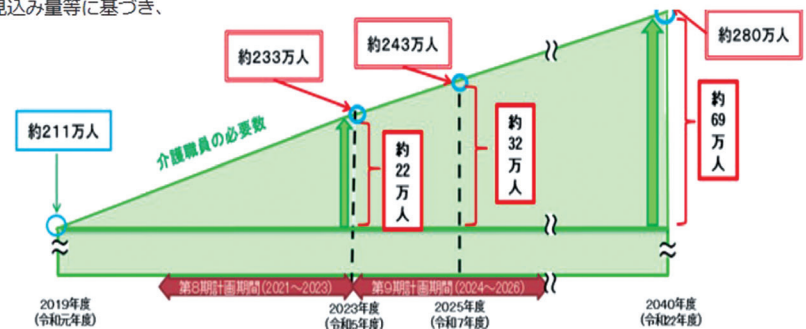
高齢化社会で「最後までその人らしく」生きるためには、日常生活をサポートしてくれる介護職の人が不可欠です。ところがここに気になるグラフがあります。厚生労働省によると2040年度には介護職の人が約280万人必要であると予想されているのに対し、そのうちの約69万人が不足するとされています。つまりこのままだと、必要な介護者数のおよそ1/4が足りません。

第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について

令和3年7月9日に第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護職員の必要数を公表しました。

これによれば、
 ・2023年度には約233万人（+約22万人（5.5万人/年））
 ・2025年度には約243万人（+約32万人（5.3万人/年））
 ・2040年度には約280万人（+約69万人（3.3万人/年））

※（ ）内は2019年度（211万人）比の介護職員を確保する必要があると推計されています。



(「第8期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について(令和3年7月9日)」別紙1より)

● 介護の仕事の魅力って何？

介護職の魅力の1つは「人の幸せに直結している」ということです。例えば認知症を患い、表情もほとんど変化しなくなっていった人が、適切な介護によって笑顔を取り戻すこともあります。

自分で食事することが出来なかった人がスプーンを持てるようになったり、寝たきりの状態から座ることができるようになったり…本人や家族が諦めていたことが、介護者の知識や工夫によって「できるように」なることが多々あります。その結果、本人も家族も心の余裕が生まれて笑顔を取り戻し、幸福感を感じながら日々を過ごすことができるようになります。そういう大きな可能性のある仕事です。



● ● ● 介護職に対するマイナスイメージ ● ● ●

イメージ1 仕事がきつい、汚い？

現状: 介護技術が進歩してきた結果、どのような人にどのようなサービスを提供すればいいか、きちんとわかってきました。介護保険制度が始まったばかりの頃に比べると、介護者の仕事内容は洗練され、無駄に動き回るようなこともなくなりました。また、人の動線に配慮された衛生的な介護施設が数多く建設され、職場環境も格段に改善されています。

イメージ2 給料が安い？

現状: 2020年の調査による「業種別の平均年収」では、介護・福祉は約364万円となっています。宿泊業・飲食サービス業が約251万円、サービス業が約353万円という数字であることから、介護職の給与がイメージほど悪くないことがわかります。

業種別の平均年収(2020年)	※全体平均は433万円
介護や福祉	約364万円
サービス業	約353万円
農林水産・鉱業	約300万円
宿泊業・飲食サービス業	約251万円

イメージ3 休みが少ない、長時間労働

現状: 確かに以前は休みの少ないイメージがありました。しかし介護職の労働環境を改善するため、厚生労働省が指針を出すなど働きかけを行った結果、法律に則って年間の取得休日数や実働時間を決定するサービス事業者が増えています。

● ● ● 進化する介護の現場 ● ● ●



ロボットが介護をサポート

タブレット端末による情報共有（利用者の体温や食事量、健康状態などをその場でタブレット端末に入力。全スタッフが瞬時に情報を共有できる）、センサー類による生活パターンの把握（排せつなどの生活パターンを記録して、おむつが濡れる前にトイレに誘導する等）、力仕事が必要な場面で介護者をサポートするパワーアシストスーツなど、介護の現場を支えるさまざまな技術が導入されています。



排尿を感知するセンサー